

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0665
施設名	下馬鳩ぽっぽ保育園
施設所在地	世田谷区下馬3-14-9
法人名	社会福祉法人杉の子保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
地域にあるお米屋さんより稲をいただき、使わなくなったプールを使って子どもたちと小さな田んぼを作り田植えを行った。田んぼの中にメダカを放つとすぐに繁殖し小さなメダカが増え、アメンボやトンボがやって来るようになった。保育室で飼っているメダカに水槽に水草を増やした方がいいのではいか、など身近にいた生き物に関心を持つ姿もあったり、クラゲに関心を持つ園児は自分でくらげ図鑑を作成する姿もあったため、生き物に関心を持つ園児と一緒にさらにどのように生き物に関心をもっていくのか、探求心を広げ深めていきたいと思い、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

遠足に行く日が決まっていて、その1か月ほど前から子どもたちと遠足について話を進めていた。どこに行こうか、どうしてそこに行きたいのか、など子どもたちと話し合い、行き先が決まると、自分が観察したい生き物は何か、とひとり一人が考えらる時間も作りながら進めていった。
水族館ではそれぞれ写真を撮ってみることを決め、遠足の前には撮り方の体験から当日を迎えた。遠足後は撮った写真と描いた絵を展示し、保護者にも自分たちから遠足等の感想を伝えられた。12月に多くの保護者に伝えられる機会を設け、発表の仕方も子どもたち中心になって決めていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

日々、異年齢で過ごしているが、集中して話を進めていけるように、3・4歳児との活動を分ける時間を設けていった。事前に調べる際には図鑑を増やしてみたり、絵を描く素材も子どもたちの要望で増やしたりもした。

パンフレットを大きくし共有出来るようにしたことで、水族館にどんな魚がいるのかがわかり、図鑑と合わせてイメージを持てるようにしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちとどんな生き物がみたいかなど、遠足に行く日が1か月ほど前から話し合いを進めていった。行き先が決まるとそれぞれがどんな魚のどんなところがみたいのかを聞き、子どもたちが図鑑などでいろいろと調べ、少し時間をかけながら進めていった。当日はカメラを手に持ち、自分の調べていた魚のところに来ると写真を撮って、ここが調べていたことが実際どうなのか写真を撮ったりしながら確認していた。翌日には保護者に感想をみんなで伝えたり、12月にも多くの保護者の方々にクイズ形式で見てきたことを発表することができた。大人にヒントをもらうこともあったが、子どもたちの「やってみたい」を実現しながら活動ができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「どこに行こうか」「どんな魚が見たい?」「水族館までどうやって行こうか」など問いかけ、子どもから出てくる言葉を聞きながらどうやればできそうか、どうすれば分かるのか、と再度問いかけていき、子どもたちのやりたいことを実現できるよう寄り添っていった。それぞれが発言し、友だちの話の聞き決定していく、というように話が進んでいった。電車が好きな子は、路線路を見ながら行き方の説明を皆にしてくれて、得意なことを披露できる場面もあった。

日常の中で図鑑を調べていたり、保護者と共有していたりする様子があり、自分たちで進めている実感と楽しみにしている様子が伝わってきていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

人前で話をすることがあまり得意ではなかった子が、しっかりと自分の思いを言葉にして伝えることができ、他の子どもたちも大人ではなく子ども同士での話が進んでいくことに成長と今までの積み重ねが形になっていることを実感することができた。周囲に影響されずに自分が見たい魚をしっかり調べ当日を迎えられたことにも成長を感じた。サークルタイム(話し合い)の回数、時間は子どもたち全体の様子を見て調整をしていたが、それ以外の場面でも魚について話している(調べている)姿があったので、子どもたちのなかでの探求心や楽しみにしている様子を感ずることができた。